

文学部

I	教育の水準	教育 10-2
II	質の向上度	教育 10-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生の主体的な学習を推進するため、少人数制のゼミナール形式を中心とした教育体制に取り組んでおり、平成27年度では専任教員（教授、准教授、講師）一人当たりの学生数は5.4名となっている。
- 多様な教員の確保に取り組んでおり、専任教員（教授、准教授、講師）の約1割は一般企業等の常勤職、約8割は東京大学以外の教育研究機関での職歴がある者となっている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成27年度から、後期課程の学部学生を対象に、文学部の後期教養教育を実施しており、「人文知へのいざない」として「もう一度学びなおす古典」、「ことばと人間—カテゴリー化と世界の捉え方」、「翻訳の創造性」のリレー式講義を行っている。
- 平成23年度から、死生学と応用倫理に関する学際的教育を構築するための学部横断型の教育プログラムである「死生学・応用倫理教育プログラム」を実施しており、平成27年度における授業の履修者数は、「死生学概論」は242名、「応用倫理概論」は116名となっている。

以上の状況等及び文学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）において、学会誌『地方史研究』に掲載された学生の卒業研究論文は6件となっている。
- 平成26年度の卒業生を対象に実施した大学教育の達成度調査の結果では、大学教育を通じて身に付いたこととして、「広い視野からの判断力」、「異なる

文化や価値観の理解・尊重」と回答した者は8割以上となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成26年度の卒業生のうち大学院への進学者は84名となっている。また、就職者は247名、主な就職先は官公庁、製造業、金融保険、建設不動産、サービス業となっており、平成21年度と平成26年度の就職者数を比較すると、いずれの業種についても伸びていることがうかがえる。

以上の状況等及び文学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 27 年度から、後期課程の学部学生を対象に、文学部の後期教養教育を実施しており、「人文知へのいざない」として「もう一度学びなおす古典」、「ことばと人間—カテゴリー化と世界の捉え方」、「翻訳の創造性」のリレー式講義を行っている。
- 平成 23 年度から、死生学と応用倫理に関する学際的教育を構築するための学部横断型の教育プログラムである「死生学・応用倫理教育プログラム」を実施しており、平成 27 年度における授業の履修者数は、「死生学概論」は 242 名、「応用倫理概論」は 116 名となっている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 26 年度の卒業生を対象に実施した大学教育の達成度調査の結果では、大学教育を通じて身に付いたこととして、「広い視野からの判断力」、「異なる文化や価値観の理解・尊重」と回答した者は 8 割以上となっている。
- 平成 26 年度の卒業生のうち大学院への進学者は 84 名となっている。また、就職者は 247 名、主な就職先は官公庁、製造業、金融保険、建設不動産、サービス業となっており、平成 21 年度と平成 26 年度の就職者数を比較すると、いずれの業種についても伸びていることがうかがえる。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。